

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
					○	

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	研修内容の充実(保育所)
-----	--------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	施設長や保育士等の資質向上のため、北九州市社会福祉研修所の研修について、その効果を検証しながら内容等の検討を行い、一層の充実を図ります。具体的には相談技術、児童虐待問題、情報化や国際化等の研修を充実します。また、市内外で行われる専門研修に積極的に参加します。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	就学前教育			

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	階層別、課題別、職種、施設別研修を計画をし、施設長や保育士等の資質向上を図る						
		これまでの進捗状況・今後の予定	実施計画17項目、 延べ日数90日、 延べ参加人数4,700名実施 研修時間:343時間	階層別、課題別、職種、施設別研修を計画をし、施設長や保育士等の資質向上を図る					
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）				平成22年度		平成23年度	目標
		施設長や保育士等の研修の実施				計画	343 時間		年度
		社会福祉研修所において、新任・中堅・主任級研修や課題別(言葉・表現・健康)研修、保育ゼミナール、乳児保育、統合保育、カウンセリング研修、心理学、施設長研修等全17項目を実施します。				実績	343 時間		内容
						達成度	100 %	%	
						計画			年度
						実績			内容
						達成度	%	%	
	コスト					事業費	4,218 千円	3,064 千円	
						うち一般財源	2,230 千円	2,753 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 計画した17項目(延べ日数90日 延べ参加人数4,700名)の研修を年度内に履修しました。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	経験年数や職種別にきめ細かく計画を立てて研修を実施することで、保育に内容を活かすことができ、保育士等の資質向上のために有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	福祉事業団に委託された社会福祉研修所は、長年の実績があり、優れた研修のノウハウも持っています。同コストで今まで以上の研修を実施することは困難と考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	保育所保育指針に示されているように、研修の位置づけは大変重要です。保育の質の向上に向けて実施していかなければなりません。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	乳幼児保育は市の責務です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	市の責任において、今後も研修の充実を図り、積極的に取り組む必要があります。現在の研修項目を時代のニーズに答えるべく見直しをしながら、計画を立てて施設長をはじめ保育士等の参加を一層促し、質の向上を図ります。

【次年度計画】	
目的実現のために23年度に実施すること	現在の研修項目を時代のニーズに応えるべく見直しをしながら、計画をたて、研修内容の充実を図ります。
	前年度に評価した今後の方向性

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
				○

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	児童福祉施設等第三者評価事業
-----	----------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所や児童養護施設等について、より適切な情報の提供やサービスの質の向上を図るため第三者評価事業の一層の普及を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	就学前教育

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
		当初の予定	事業者の提供するサービスの質の向上、サービスを利用しようとする方への適切・円滑な情報提供を行う								
		これまでの進捗状況・今後の予定	・第三者評価事業 通常評価:10施設 再評価:10施設 ・フォローアップ研修会開催	事業者の提供するサービスの質の向上、サービスを利用しようとする方への適切・円滑な情報提供を行う。							
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）				平成22年度		平成23年度	目標		
		「第三者評価事業」参加施設数(総数)				計画	157	施設		年度	
		「第三者評価事業」参加施設数を指標として掲げました。				実績	124	施設		内容	—
						達成度	79	%	%		
		「第三者評価事業フォローアップ研修会」開催				計画				年度	
		市内認可保育所の施設長、保育士を対象に「第三者評価事業フォローアップ研修会」を開催し、「北九州児童福祉施設等評価基準(保育所編)」の活用について理解を促進し、事業参加への動機付け及び保育の質の向上を図っています。				実績	開催			内容	
				達成度	%	%	%				
コスト					事業費	2,211 千円	3,890 千円				
					うち一般財源	2,211 千円	3,890 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	「第三者評価事業フォローアップ研修会」を開催しました。(平成22年6月30日、7月14日) 市内認可保育所について、通常評価10施設、再評価(三年次評価)10施設の第三者評価を実施しました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、事業者の提供するサービスの質の評価を行うとともにサービスの利用を予定している方に対して適切・円滑にサービスを利用できるよう情報提供を行うものであり、その有効性は高いと考えます。		
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。			4	本事業は経済的・効率的に実施しています。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。			4	保育サービスの向上は重要な課題であり、本事業の実施は施策実現に対して高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。			4	本市の認可により運営を行っている「認可保育所」を事業対象としており、実施主体として市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	引き続き、現在の内容で事業を実施します。		

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	未参加施設への事業参加を積極的に促し、第三者による評価を通して、保育所のサービスの質の向上と利用しようとする方への情報提供を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	教育委員会・企画課
連絡先	582-2357

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	幼児教育の振興
-----	---------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	学校教育法では、「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの」と位置づけられています。また、市内の幼稚園児の97%が私立幼稚園に通っている現状から、本市の幼児教育における私立幼稚園の果たす役割はますます重要となっています。そこで、私立幼稚園における幼児教育の振興と保護者の経済的な負担の軽減を図るとともに、私立幼稚園の人材や機能を活用して子育て支援を行うものです。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	就学前教育

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	私立幼稚園振興助成補助金 全園				新たな計画に基づき 実施する予定			
		これまでの進捗状況・今後の予定	私立幼稚園振興助成補助金 全園				新たな計画に基づき 実施する予定			
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		カウンセリング・統合保育研修参加者				計画	60 人		年度	平成25年度
		研修に参加することにより、教諭の資質、技術の向上につながるため、指標としました。				実績	32 人		内容	全園
						達成度	53.3 %	- %		
						計画			年度	
						実績			内容	
				達成度	- %	- %				
コスト					事業費	224,672 千円	252,705 千円			
					うち一般財源	224,672 千円	252,705 千円			

事業の実施結果・進捗状況の確認	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成22年度において、全園(96園)の補助金を活用しており本市の幼児教育振興に大変寄与しています。

〔事業の再検証〕				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	・北九州市私立幼稚園振興助成補助は全園が利用、施設の設備整備や備品・教材購入等に充てられており、幼児教育環境の整備に役立っています。 ・特別な支援を要する園児支援事業については、平成18年度 20人、平成19年度 23人、平成20年度 29名、平成21年度 21名、平成22年度 17名の申請がありました。これは、県の補助金の対象とならない幼稚園に対し補助を行うものであり、障がいを持つ園児の受け入れの拡大に寄与しています。 ・未就園児の親子登園が77%の園で、育児サークル支援が23%の園で実施されるなど、地
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	カウンセリング・統合保育研修は保育士と合同で、新採研修等は公立幼稚園と合同で実施するなど経済的、効率的な事業実施に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	・今後も幼児教育における私立幼稚園が果たす役割は増大すると考えられ、幼児教育の振興と保護者の経済的負担の軽減のため、今後とも継続する必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。		4	市内の幼稚園の97%が私立幼稚園に通っており、本市の幼児教育における私立の役割は、大変重要です。人を育てる第一歩である幼児教育の充実、市として最も力を入れて取り組むべき課題です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	・厳しい財政状況の中、私立幼稚園における幼児教育の振興と保護者の経済的な負担の軽減を図っていく必要があります。 ・私立幼稚園振興助成補助の拡充(AED設置推進事業及び幼稚園園庭芝生化モデル事業を新たに助成)を行います。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	・私立幼稚園振興助成補助の拡充（AED設置推進事業及び幼稚園園庭芝生化モデル事業を新たに助成）を行います。	前年度に評価した 今後の方向性

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	教育委員会・企画課
連絡先	582-2357

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	私立幼稚園における学校評価の実施
-----	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	幼児がより良い教育を享受できるよう、学校評価を通して、学校の教育活動その他の学校運営の改善を図ることが必要です。また、評価結果等を広く保護者等に公表することにより、地域に開かれた学校づくりを行っていく必要があります。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	就学前教育

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	・自己評価の実施 全園 ・外部評価の実施 80園				→	新たな計画に基づき実施する予定 →		
			これまでの進捗状況・今後の予定	・自己評価の実施 58園 ・外部評価の実施 22園	・自己評価の実施 全園 ・外部評価の実施 80園		→			新たな計画に基づき実施する予定 →
		実施状況		成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）				平成22年度		
	自己評価の実施園数		計画	96 園	95 園	年度	平成25年度			
	平成20年度から幼稚園は、教育活動その他の幼稚園の運営状況について自己評価を行い、その結果を公表することが法令上義務付けられているため、全園で実施する必要があることから、目標として設定しました。		実績	58 園		内容	全園			
			達成度	60.4 %	%					
	自己評価に対しての関係者評価の実施園数		計画	80 園	80 園	年度	平成25年度			
	幼稚園自身の評価だけでなく、外部の評価も必要と考えており、概ね8割程度の実施を目指します。		実績	22 園		内容	80 園			
		達成度	27.5 %	%						
コスト		事業費	千円	千円						
		うち一般財源	千円	千円						

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	私立幼稚園96園中、58園が実施されています。
------	-------------------------------------	-------------------------

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	2	教員の資質の向上が自己評価の項目として挙げられており、平成20年度より自己評価が義務化され全園を目標に指標の設定を行い、平成22年度に実施した6割の園において施策の実現に効果があったと考えます。今後とも、全園の実施に向け引き続き働きかけを行います。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	内部における自己評価等のため、事業費は生じていません。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	学校教育法の改正により、学校評価が義務付けられています。学校運営や教育活動の改善のためにも促すものです。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		3	市として、私立幼稚園の学校評価に関与するわけではありませんが、より良い教育活動、幼稚園運営を図るため、学校評価の実施を促すものです。
	今後の方向性		評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	私立幼稚園連盟を通して、学校評価の実施を促します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---------------------------	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	教育委員会・企画課、指導第一課
連絡先	582-2357、582-2367

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	新しい時代に対応した公立幼稚園における教育の推進
-----	--------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	幼児教育の充実を図ることを目的として、全市的に取り組むべき課題解決に向けた検討を行います。 特に、「小学校教育への円滑な接続を見通した発達の段階に応じた幼児教育の在り方」、「特別な支援を要する子どもたちに対する教育の在り方」等について重点的に取り組みます。 また、公立幼稚園の適正配置も併せて検討します。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	就学前教育			

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	幼児教育の充実を図ることを目的とした、全市的に取り組むべき課題解決に向けた検討					
		これまでの進捗状況・今後の予定	幼児教育の充実を図ることを目的とした、全市的に取り組むべき課題解決に向けた検討					
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）						
					計画	平成22年度	平成23年度	目標
					実績	-	-	年度
					達成度	- %	- %	内容
					計画			年度
					実績			内容
					達成度	- %	- %	
	コスト				事業費	- 千円	千円	
					うち一般財源	千円	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	国の動向の把握及び他都市の状況調査を行い、教育委員会内で、公立幼稚園が果たすべき役割等、公立幼稚園の在り方についての検討を行いました。 また、公立幼稚園において研究実践活動を行うとともに、その成果を各研修会等で発表するなど、教育内容の充実及びその普及に努めました。 さらに、新しい幼稚園教育要領に則った「北九州スタンダードカリキュラム 幼稚園」を、公立幼稚園の園長及び教諭を中心に作成しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	公立幼稚園が果たすべき役割等、公立幼稚園の在り方についての検討を行うことは、幼児教育の充実を図る上で必要であると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	経済的、効率的な事業実施に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	現在、子育て環境や親の意識に変化が生じ、子どもの育ちにも様々な課題が指摘され、幼児教育の重要性が改めて認識されています。こうした中、幼児教育の充実を図ることを目的として、公立幼稚園の果たすべき役割について検討することは必要であると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	北九州市立幼稚園の設置者は北九州市であり、実施主体として市が関与する必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も、国の動向を注視しながら公立幼稚園が果たすべき役割等、公立幼稚園の在り方についての検討を行っていきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	引き続き、国の動向の把握及び他都市の状況調査を行い、教育委員会内で、公立幼稚園が果たすべき役割等、公立幼稚園の在り方についての検討を行っていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------